

第44回 公益社団法人 日本看護科学学会 学会総会 議事録

日 時 2024年12月7日(土) 16時50分～17時50分

場 所 熊本城ホール 2階シビックホール

出席者数 1,201名(会場出席137名、委任状1,064名)

議 長 前田ひとみ

配布資料 第44回学会総会議事次第

I. 開会

現正会員数10,517名中、総会に出席した正会員数は76名、有効委任状提出者1,064名、合計1,140名であり、日本看護科学学会定款第45条に定められた要件を満たしていることを確認したのち、第44回公益社団法人日本看護科学学会総会が開会された。司会は西村ユミ副理事長が、書記は西方真弓氏(新潟大学)が行った。

II. 理事長挨拶

吉沢豊予子理事長より、以下の挨拶があった。

第44回日本看護科学学会学術集会が対面で開催され、本日は3,890名の多くの方々にご参加いただきました。今回の学術集会では、「格差社会への看護学の挑戦～想像を超えた未来を創造する～」という非常に魅力的なテーマを掲げている。現在、気候変動や情勢不安が地球規模で続いており、これらの様々な影響は健康格差を含め多様な格差を引き起こしている。今回の学会では、私たち看護科学の研究者、実践者、そして当事者が一体となり、「格差社会への挑戦」というテーマについて議論した。明日二日目も引き続き、頑張っていきたい。この学会総会では、理事会や社員総会も踏まえた活動内容や財政状況について報告させていただく。会員の皆様からは忌憚のないご意見をいただきたい。

III. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第44条に従い、議長に第44回学術集会会長の前田ひとみ氏が指名された。また議事録署名人については、議長から五十嵐歩氏(東京大学)、堀内成子氏(聖路加国際大学)の2名が指名され、承認された。

IV. 報告事項

1. 理事長のビジョンと運営方針

吉沢豊予子理事長より、会場に投影されたスライドに示された内容を基に以下の説明があった。

1) 理事会コミットメント

- (1) 知の創造活動の継続
- (2) 社会で活用される知の具現化と社会実装の実現
- (3) 上記(1)・(2)の好循環
- (4) これらを遂行する若手研究者の育成と研究環境の整備

2) 理事会コミットメントと活動中（分掌）の委員会について

(1) 知の創造活動の継続

和文誌・英文誌各編集委員会、研究・学術推進委員会、看護倫理検討委員会、研究助成選考委員会、国際活動推進委員会

(2) 知の具現化から社会実装へ

看護ケア開発・標準化委員会、看護学学術用語検討委員会、災害看護支援委員会、社会貢献委員会、広報委員会

(3) 若手研究者等育成・研究環境整備

若手研究者活動推進委員会、若手研究者助成選考委員会、表彰論文選考委員会

(4) 後方支援

利益相反委員会、研究倫理審査委員会、会則等委員会、総務委員会、選挙管理委員会、JANS事務所

3) 今後の事業の方向性について

(1) 知の具現化の強化

オープンサイエンスの理念に基づき、JJNSのフルオープンアクセスへの検討

(2) 日本・世界の人々のウェルビーイングへの貢献

JANS設立50周年に向けて：看護研究者と一般市民参加型（シチズンサイエンス）による看護学の再構築、HPの市民の皆様への開設とアクセス数の検討

(3) 公益法人としての財政の立て直し

重点事業の明確化と収益を見込める事業による増収の検討

(4) 看護系団体との一層の協力体制

JANA、JANPU、JNAとの一層の協力体制

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

2. 委員会のミッションと2025年度事業計画について

各委員会のミッションと2025年度事業計画がスライドで表示され、各委員会は会務分掌に基づき、継続して下記の活動を行っていく旨、田口敦子総務担当理事より説明があった。

1) 和文誌編集委員会：日本看護科学会誌の編集・発行

（投稿規程、ガイドライン等の必要な場合の見直し、迅速査読制度と著者要件変更の評価、編集委員、査読委員の活動支援と投稿数の向上等）

2) 英文誌編集委員会：Japan Journal of Nursing Scienceの編集・発行

（プロモーション活動の実施、インパクトファクターの向上、迅速査読を含む投稿数増加に対応する査読システムの整備、JJNSセミナー等）

3) 表彰論文選考委員会：表彰論文と学術集会演題の選考、公開、表彰を実施

（表彰機会の増加(論文と演題)による論文投稿の向上等）

4) 研究・学術推進委員会：会員の看護学に関する各種研究の推進を支援

（大型研究費獲得のための支援の継続セミナー開催、オンラインジャーナルクラブの定期開催等）

- 5) 看護ケア開発・標準化委員会：看護技術を開発標準化するモデルを構築
(ガイドライン作成グループによる草案やレビュー論文の公開、看護ケアエビデンスの蓄積と標準化、JANAや他学会との連携等)
- 6) 若手研究者活動推進委員会：未来の看護学を創造・想像する土台を構築
(若手研究者ネットワークの活性化と連携の強化、セミナーの開催、他学会との連携等)
- 7) 国際活動推進委員会：看護学の国際活動の推進
(国際学会での研究発表増加への支援と若手研究者助成との連携、海外学術団体との交流、異文化看護データベースの更新等)
- 8) 看護学学術用語検討委員会：看護が扱う専門用語の概念的統一を図る
(電子システムJANSpediaによる看護用語公開、新たな用語の追加等)
- 9) 社会貢献・広報委員会（仮称）...従来の広報委員会と社会貢献委員会を統合：看護学を広く発信し、看護学の研究活動を通して人々の健康と医療、福祉に貢献
(ホームページの拡充とSNS等の利用による新たな広報活動の充実学術集会での市民公開講座開催、次世代育成に向けたWebサイトの充実とSNSを駆使して中高生との交流会を実施等)
- 10) 看護倫理検討委員会：倫理的課題を整理し研究者モラルの向上を図る
(看護倫理の遵守、研究活動の不正防止に関する啓発活動の実施)
- 11) 利益相反委員会：役員、委員、投稿者や発表者を対象にCOIを実施し評価を実施
(指針、細則、COI申告書の見直し、新たなシステムの導入等)
- 12) 研究倫理審査委員会：看護研究の倫理的配慮がなされているか審査する
(申請による審査の実施、利益相反委員会との連携)
- 13) 災害看護支援委員会：看護系学会との連携により災害時活動内容を検討
(研究課題に関する情報収集、支援に関する調査と論文公開等)
- 14) 若手研究者・研究助成選考委員会（仮称）...従来の若手研究者助成選考委員会と研究助成選考委員会を統合：会員の研究活動を経済面から支援
 - (1) 若手研究者助成：若手研究者の国際学術集会への出席や海外留学の支援
 - (2) 研究助成：
 - ①正会員（大学院生・ポストドクター）が研究を行うための挑戦的課題研究助成
 - ②正会員（除く大学院生・ポストドクター）が研究を行うための指定課題研究助成
- 15) 会則等委員会：定款や規程類、申し合わせ事項等についての管理・運営を実施
(定款の改正の必要性や規則等見直しの必要性を検討)
- 16) 総務委員会：会員管理と事務所管理

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

3. 2025年度予算について（スライド）

収支予算書について、会計担当の萱間真美理事より説明があった。

会費収入、公益目的事業収入、収益事業収入等を含めた経常収益合計は、172,762,000円を見込んでいる。2025年度からは、学生会員を新たに設けたことにより、会費収入が一部学生会費収入（3,000円×50人：15万円）に置き換わる予定。公益目的事業支出や法人会計等を含めた経常支出合計は216,285,755円を予定している。この収益と支出の差異（事業活動収支差額）は

43,523,755円の赤字予算となっている。

本学会は、公益会計基準で運営されており、基金として72,926,624円、一般正味財産として88,316,782円があり、合計すると約1億5000万円が手元にある。したがって、4,300万円の赤字であっても運営的にはすぐに問題はない状況である。しかし、一般正味財産の残額は年々減少しているため、今後も活発な学会活動を続けていくためには、収益を生む事業を考えていく必要がある。昨日の社員総会、理事会においても、この件について具体的な案を考えていく方針となり、今後理事会で検討していく予定である。

4. 名誉会員の就任報告

総務担当の田口敦子理事より、南裕子氏の名誉会員就任が報告された。

5. 第47回日本看護科学学会学術集会会長の選任報告

総務担当の田口敦子理事より、2027年開催の第47回日本看護科学学会学術集会会長として、田高悦子氏（北海道大学）が就任された旨、報告があった。

6. 学生会員の創設

総務担当の田口敦子理事より、今年6月の定時社員総会で学生会員の創設に関し、定款変更が承認された旨の報告があった。JANSにおいても若手育成は重点課題の1つである。若手の学会入会を促進することで、会員の拡充と看護学の発展に寄与するため「学生会員」を創設すること、申込開始は来年1月からである旨、報告があった。詳細は、今後JANSのHPに掲載していく。

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

V. 審議事項 理事会への意見

議長が意見を促したところ、質問は無かった。

VI. 第23回学術論文表彰

表彰論文選考委員長の有森直子理事が学術論文優秀賞1名、学術論文奨励賞2名を紹介した。3名の受賞者より受賞の挨拶があった。受賞論文は以下となる。

【優秀賞】千葉真希様（武庫川女子大学）

論文題名：Clinical trial of a birth and parenting planning program for women diagnosed with fetal anomalies: A feasibility study

【奨励賞】青盛真紀様（横浜市立大学）

論文題名：Effects of a smartphone app-based diet and physical activity program for men living with HIV who have dyslipidemia: A pilot randomized controlled trial

【奨励賞】薬師寺佳菜子様（九州大学大学院）

論文題名：Long-term health-related quality of life of total hip arthroplasty patients and cost-effectiveness analysis in the Japanese universal health insurance system

VII. 第45回日本看護科学学会学術集会会長 挨拶

第45回学術集会会長有森直子氏（新潟大学）より、以下の挨拶とプロモーションビデオ放映があった。

第45回日本看護科学学会学術集会は、2025年12月6日と7日に新潟市の朱鷺メッセにて開催する予定である。テーマは「看護科学と尊厳」で、市民や患者、専門職者の視点から「尊厳」を探求することを目的とする。本学会では、医療倫理やAI技術の進展、遺伝医療など現代の課題を尊厳というテーマを軸に領域を超えて、参加者と活発な議論を展開することを目指したい。

12月の新潟はトンネルを抜けると鈍色の雲が広がり、熊本とは全く違った天候である。新潟にお越しいただく際には、彩り豊かな服装で、会場を華やかに盛り上げていただければ幸いである。かつて北前船が寄港した新潟の地で多様な交流を楽しめることを心より願っている。本学術集会が皆さまにとってよき思い出となるよう、委員一同おもてなしの心を込めてお待ちしております。

VIII. 閉会

司会の西村ユミ副理事長より、最終的な出席者正会員数は委任状を含めて合計 1,201 名となり、学会総会が成立していることがあらためて報告された。

以上をもって、第 44 回公益社団法人日本看護科学学会総会が閉会した。

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により以上の議事を認め記名押印する。

2025年 2月 4日

議長 前田 ひとみ 印

議事録署名人 五十嵐 歩 印

議事録署名人 堀内 成子 印

第44回 公益社団法人 日本看護科学学会 学会総会 優秀論文表彰（優秀賞・奨励賞）議事次第

日 時 2024年12月7日（土）16:50～17:50
場 所 熊本城ホール2階 シビックホール

【議事次第】

I. 開 会

II. 理事長挨拶

III. 議長指名および議事録署名人の承認

IV. 報告事項

1. 理事長のビジョンと運営方針
2. 委員会のミッションと2025年度事業計画について
3. 2025年度予算について
4. 名誉会員の就任報告
5. 第47回日本看護科学学会学術集会会長の選任報告
6. 学生会員の創設

V. 審議事項 理事会への意見

VI. 表彰

VII. 第45回日本看護科学学会学術集会会長 挨拶

VIII. 閉 会